

第24回中国に親しむ会／春節イベント

「チャイニーズ・ブランド・アーキテクチャー」

…建築家にとって中国という場所はどのような可能性を持ちうるか？…

開催日時：2月6日（水） 講演 15：00～16：50

開催場所：財団法人日本建築センター A・B会議室（5階）

講師：建築家・迫慶一郎氏（当協会中国賛助会員）

北京卅口建筑设计咨询有限公司（日本名：SAKO 建築設計工社） 代表

参加者：29名

【講師プロフィール】

- ・1970年、福岡県生まれ
- ・1996年、東京工業大学大学院修士課程修了
- ・1996年、山本理顕設計工場勤務
- ・2004年、SAKO 建築設計工社設立
- ・2004年～2005年 文化庁派遣芸術家在外研修員としてコロンビア大学客員研究員を務める。
- ・山本理顕設計工場勤務時、北京のCBDに位置する大規模プロジェクト「建外SOHO」を担当したのが中国との出会い。
- ・3年間の北京駐在後、現地にてSAKO 建築設計工社を設立。建外SOHOに事務所を構え、日本人設計者を中心とした約30名のスタッフにより構成。グラフィック、インテリアデザインから建築設計、地域計画まで幅広く手掛けている。中国各地を始め、日本、韓国、スペインにおいて10数件のプロジェクトを進行中。
- ・著書に「EDGE 素材のチカラ」（2006年・中国美術館）「28の主題 迫慶一郎の建築」（2007年TOTO出版）。
- ・中国での代表作は「北京ポプラ」「北京フェリシモ」「天津カレイドスケープ」など。受賞多数。
- ・2007年6月に日本最大級の書店「金沢ビーンズ」がオープン。'07年12月より東京の「ギャラリー・間」にて、展覧会「REALIZE 立脚中国展開世界 迫慶一郎／松原弘典」を開催中。
- ・『次世代の空間デザイン 21名の仕事』という本でも迫氏が取り上げられています。
- ・'08年1月13日にTBS『情熱大陸』で活躍の様子が放映されました。



今年の『中国の春節を祝う会』は、本会の中国賛助会員でもある、北京在住の新進気鋭の若手建築家・迫慶一郎氏をお迎えしての記念講演と懇親会を開催しました。

Brand とは、…ならではの、
Chinese “Brand” Architecture …『中国ならではの建築様式』
それは“4 S”… 所謂、Speed × Scale × Scope × Start である。
と云う、迫氏の理論をベースに話を展開された。

北京の CBD プロジェクト (記憶では 4 キロ四方…延べ床面積約 5~600 万㎡の大開発区の中でも最初にスタートした大規模プロジェクトと認識している=筆者注記=) の中に位置する「建外 SOHO プロジェクト」=第一期~第七期の設計監理の責任者として赴任し、それが縁となり北京で SAKO 設計事務所を設立した。

”4 S“理論を建築哲学にグラフィック、インテリアデザインから建築設計、そして地域計画まで幅広く手掛けておられます。今回は、その事例を元にお話をいただいた。

中国における建築家としてのやりがいや難しさを、そして逆転の発想 (例：日本では考えられない手作り工法など) での諸々の工夫等をもご紹介いただいた。

質疑応答の時間も後の懇親会へ譲るほどの熱演でした。

筆者より質問をさせていただいた。…1月13日 TBS『情熱大陸』でカット？された設計費用の回収についての結論は如何？=2/3程は回収済みで、現在も請求中…心配していましたが取敢えずは安堵した次第！ご関係の皆様もご用心を！



日本では考えられない手作り工法により建てられた自由な曲線が印象的な書店。
中国だからこそ実現可能な設計。



熱心に聞き入る会員企業の皆様方



著書を紹介する迫 慶一郎氏
「28 の主題」迫慶一郎の建築
TOTO 出版より

(A. H記)

(関連記事：会報 NO.172 掲載)